

私は、4年間別の幼稚園で働き、この春からキリスト教保育を行っている幼稚園に就職しました。初めてキリスト教保育に触れる私にとって今回の講演会は、不安が安心に変わるとても貴重な時間となりました。菰田先生はまず、「ようこそキリスト教保育の世界に」と笑顔で話し始めました。新人の私たちを温かく迎えてくださり、子どもたちだけでなく私たち保育者も認められる存在であることが感じられました。

菰田先生は、保育で大切にすることとして「安心」「自由」「自主的、自立的、自律的」「ファンタジーの力」「遊びの質」という五つのキーワードを挙げられていました。その中の、「子ども自身の心が自由かどうかを考える必要がある」という言葉が、私はとても心に残りました。クラスや園全体の活動の中に「自由」を感じられることもあれば、自由に遊ぶ時間に「自由」を感じられない子どもがいることもあると聞き、自分の保育を振り返るきっかけになりました。やりたいことをしていいと言われてすぐに好きな遊びを始められる子どももいれば、辺りを見回して遊び始められない子どももいる。そのような光景を思い出し、常に立ち止まって考えなくてはならないことだと、改めて感じました。

講演の終わりに、「イエス様から手渡されたパンを私たち保育者が子どもたちに割いて渡していくのです」と話されたことも印象的でした。神様が私たちを温かく迎えてくださったように、子どもたち一人ひとりにたくさんの愛を持って保育の仕事



役員会報告

書記 曲名絹仁

役員会は五月二十三日(木)、七月十八日(木)いずれも高座みどり幼稚園にて開催されました。主な事をご報告いたします。

- ◆二〇一九年度新入会
四月より入会…シャローム保育園 相模白ゆり幼稚園 友愛保育園
- 五月より入会…高見保育園

- ◆夏期講習会
八月二十日(火)九時半～一四時四十分
捜真学院チャペルにて開催されます。
受付…九時十分

- 礼拝…藤本忍牧師
講師…東義也先生/尚綱学院大学
閉会祈祷…千葉ホール中島聡牧師
担当…認(関)東学院六浦こども園

- 認(捜)真幼稚園
認(伊)勢原幼稚園

- ◆中堅保育者研修会
十一月二十七日(水)十五時半～十七時
関東学院大学関内メディアセンターにて開催されます。

- 講師候補…大瀧知子先生/東洋英和女学院大学附属かえで幼稚園園長
担当…恵泉幼稚園 福音幼稚園

- ◆第二回講演会
十一月六日(水)一五時半
野毛山キリストの教会にて開催されます。

講師…藤田智(さと)し教授/恵泉女学院大学
内容…園での栽培・保育環境、子どもがする事、先生がしなければならぬ事
担当…のぞみ幼稚園 早苗幼稚園

- ◆クリスマス礼拝
日時…一二月四日(水)一五時半
清水ヶ丘教会にて守ります。
担当…かえで幼稚園 相模翠ヶ丘幼稚園

- ◆設置者・園長・主任研修会
日時…二月二六日(木)二時～七時
関東学院大学関内メディアセンターにて開催されます。
講師…「死を招く保育」の著者でもある猪熊弘子名寄市立大学特命教授
担当…役員会

- ◆お知らせ
キリスト教保育連盟の理事として、神奈川県保育連盟として長年連盟・部会活動をお支え下さいました金児榮治先生(前)、野毛山キリストの教会牧師/前・野毛山幼稚園園長が七月十九日に召天されました。ご遺族の上に主の慰めを祈ります。

訂正とお詫び
部会だより一三五号に掲載しました「参観日、懇談会の在り方について」の原稿をお寄せくださったのは、横須賀上町教会付属めぐみ幼稚園・上杉沙織先生でした。ホームページ上ではすでに訂正されています。お詫びして訂正いたします。

編集後記

今年は日照不足で夏らしくない7月から一変、猛暑の毎日が続いています。そんな中でも子ども達は元気に園生活を楽しんでいると思います。子ども達が感じる皆さんの「楽しい」「やってみよう」を大切に、保育者と一緒に保育のワクワクを感じていきたいですね。今回も原稿をお寄せ下さった先生方、ありがとうございました。



◇発行日 2019年8月20日
◇編集者 神奈川部会 広報担当
関東学院のびのびのば園/浦尻友紀
百合丘めぐみ幼稚園/大谷真理子
◇デザイン 永野絵理世
◇イラスト提供 関東学院のびのびのば園

部会だより

キリスト教
保育連盟
神奈川部会
2019年8月20日
第136号

キリスト教保育連盟 神奈川部会 2019年度主題

ことばに満たされて 聖句「その人は流れのほとりに植えられた木」
～ひびきあう～ 一詩編1編3節



「保育はいのちを尊ぶ
幸せの種まき」
関東学院のびのびのば園
園長 井上 恵子

私はかつて関東学院中学高等学校で教師をしていた時代がありました。大学四年生で経験した教育実習に魅せられ、他に就職試験の準備をしていた私でしたが、世の中にこのように素晴らしい仕事があるのだらうかと思うほどに、生徒の成長を目の当たりにできる教育者という職業に出会ったのが、きっかけでした。またクリスチャンだったので、日々の働きの中で聖書の話ができる、神さまを賛美できる、お祈りができるということに導きを感じて就職しました。なりたくて、なりたくて選んだ道でしたが、初年度のクラス運営

◆聖句◆
「愛を身につけなさい。
愛は、すべてを完成
させるきずなです。」
コロサイの信徒への手紙
3章14節

など惨憺たるものでした。でもこれは誰もが通る道、成長するために必要な訓練なのだという気持ちがあり、失敗から学べるようになって、すべてが有意義でかけがえのない時間を感じ、同じように生徒たちの時間も二度ない、かけがえのない時であることに責任と共成長過程に居合わせることに使命を感じるようになってきました。その後いろいろな体験を通して神さまの訓練を受け、保育のフィールドではなかった私が、神さまの創造として生まれてくる「いのち」に立ち止まり、幼い「いのち」を尊び育む働きへと進み、さらに不思議な導きを経て今日があります。

投稿されてきました。同じように与えられた今日一日という時間をどのように過ごしたらよいかということに心が向けられる文章でした。それは特別なことをする時間ではなく、一冊の絵本からも、また何気ない日常からも生み出すことができるという気付きを与えられた大人がたくさんいたのではないかと思います。保育に携わる者がキリスト教保育と出会うことで、「いのち」そのものが無条件にどれほど高く、尊ばれるべきであるかを知ることが、他のどのようなスキルにも勝る保育者の祝福ではないでしょうか。聖書に「愛はすべてを完成させるきずなです」という聖句があります。ここで言われている「愛」はイエスさまが示された無償の愛です。私たち自身は、自己中心で無償の愛を他者に示すことなどできない弱い存在です。ですから神さまは私たちにイエス・キリストという救い主をお与えくださり、その愛を着なさいと言ったこと、その愛を着なさいと言ったこと、素直な子どもの前に保育者として安心して立つことができるのではないのでしょうか。

私たち保育者はイエスさまの愛を着て、幸せの種まきをする…未来に希望を与える尊い仕事であることを覚えることです。

父、祖父の園活動への参加について

保護者と園が

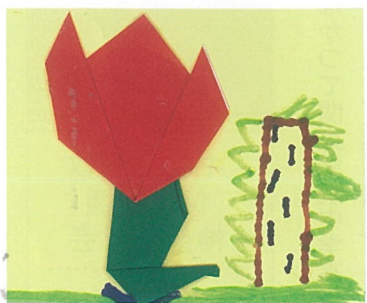
共に守るもの

のぞみ幼稚園

保育主任 松本みゆき

昨今は保護者の方へ向けた手紙に『お母様』と表記すれば「母親がいない子どもの気持ちを考えているか」「お父様」と書くこと「母子家庭のフォローができていない」とされてしまい、本園では『保護者』と統一して呼称します。中でも保護者参加の行事は、ネーミングから頭を悩ませてしまいます。6月の土曜参観では、なかなか園行事に参加できないお父様に向けた父親参観であった時代から、保護者どなたでも参加できるように、と現在はファミリーデーと名前を変えました。そして、お父様がない場合は保護者と相談しながら、お兄さんやお爺様の顔を描いてね、と声をかけて、父の日のプレゼントは全員ファミリーデーとは別日に渡します。お父様を目の前に、父の日を祝えなくなっているのは複雑な気持ちです。

私たちは一人一人の特性を踏まえ、傷つけないようにと予防線を張るのではなく、どのように工夫したら楽しめるのかを考えて保育をしているはず。ファミリーデーはお家の方と一緒にいられることを喜び、笑顔で満ちています。時には待ち時間に肩車に乗って友だちと手を合わせ、高さを競い、お父様の腕にぶら下がり、それがお父様でもお母様でも嬉しいのです。参観の日は、保育者は羨望の眼差しで子ども達を見つめます。すると目を輝かせて更に喜んでいるのがわかります。園と家庭とが繋がる参観日は、そんな笑顔で私たちも悦ばしさで一杯にしてくれます。



子どもを支えるお父さんの力

七里が浜楓幼稚園

園長 高橋 栄

青葉やアジサイが雨に映える季節、お父さんと手を繋いで登園する「土曜参観日」があります。この朝の子ども様は、普段と少し違う表情を伺えます。嬉しさを満面な笑顔に表す子、誇らし気の子、少し緊張している子、照れたり恥ずかしがる子、年少児は王様やお姫様の様になっている子。「あらっ」「そうなの」「おやおや」と、再発見の場面が多々あります。お父さんの膝に抱かれ目をつぶり、お祈りや讃美歌を歌い、ゲームや廃材おもちゃの共同制作、子どもたちの集中している姿、意欲的で逞しく、自信やモラル意識や協調性の高まりを感じます。

「家庭の教育力の低下」や子どもの「社会性の低下」が云われていますが、お父さんとの関わりは、子ども達の成長に、大切な役割を担っている事がわかります。

当園は、お父さんの会(かえでPapass)に、お父様は入園と同時に会員となります。毎年、立候補にて改選される十数名の幹事さんが、子どもと

一緒に楽しむ活動を企画し、運営をしております。子どもとお父さんの活動は、休日に開催され、夏休みの遊歩道の清掃ボランティア、カブトやクワガタ捕り(幹事さんが事前に捕獲)、Papassから奇贈された手づくりのピザ窯を使って親子でピザパーティ、鎌倉の野山を歩く親子ハイキング、陶芸教室、夏の終わりに開催する家族キャンプは、家族間の繋がる楽しい行事として、大変喜ばれています。運動会やバザーのテント張り、開催中の園周辺の安全パトロールから始まったお父さんの協働活動は、今では、地域のハロウィンパーティー、夏祭りの子どもゲームコーナー出店など、子ども達の社会性の育ちを豊かにし、お父さんの繋がりが地域活性化に反映され、安全安心地域推進に大きな力となり、この活動は市や文科省にお褒めをいただきました。



垣根を超えた交わり

横浜菊名教会附属

菊名愛児園

園長 伊藤 愛

菊名愛児園で保護者が参加できる行事は、春の親子遠足、敬老の集い、運動会、保護者会主催の移動動物園、ページェント、餅つき、きく組の集い、卒園式です。それ以外に、教会学校から夏のお楽しみ会、クリスマス会の案内が来て、ご家族やお父さんと参加する姿も見られます。運動会は特にお父さんたちの活躍が目立ちます。荷物の上げ下ろしに始まり、保護者会の競技はお父さんたちの気合の入った活躍で、大いに盛り上がります。内容はその年によって違いますが、去年度は玉入れでした。餅つきも、子どもたちに教えながら、美味しいお餅を力強くついでくれます。ページェント、卒園式は感動の嵐で、泣いている保護者の方々はたくさんいます。子どもたちの成長、頑張り、たくさん思い出を振り返り、胸が熱くなります。きく組の集いとは、五歳児のお別れ会のようなもので、子どもたちから保護者の方に劇、合奏、合唱などのプレゼントをし、保護者からは、楽器の演奏をする方が集まって、バンドを結成、

伝統の継承に一役

川崎頌和幼稚園

園長 滝澤 貢

新年を迎えると幼稚園は一気にわたしたちの伝統的な暮らしの色に染まる。年明け早々に賑々しくお餅つきが行われ、その餅を焼いて食べたり、鏡開きをしてお汁粉にしたり。更に伝承遊びを楽しむ特別な日が設定される。

このお餅つきと伝承遊びの日に力を貸してくださいるのがお父さんお爺さん(おじさんも可)なのだ。

以前は所謂「父親参観」と称して保育の現場を知ってもらったり、「お父さんが幼稚園に来る日」として、働く父親の姿(園内整備や大工作業)を見せてきたが、数年前に、「オレたちも子どもと遊びたい」という父親の意見があつて、それじゃ昔々の遊びを一緒に楽しもう、ということになった。お父さんと伝承遊びの日」はこうして始まった。

「お餅つき」は園庭に籠を四基設え、内三つに三段重ねの蒸籠がのり、三基の石臼がフル稼働して二〇臼ほどの餅をつく。バックヤードにはお母さんたちが控えて、あんころ餅、磯辺餅、きなこ餅、草餅、そして鏡

餅が手際よくつくられる。つきたて出来たての餅を食べた子どもたちも、みんな杵を手に餅つきをする。町内会で餅つきをするところもめつきり減ってしまい、こういった伝統に触れるチャンスは幼稚園が唯一ということも珍しくない。お爺ちゃんからお父さんへ、そして更に若いお父さんへ、伝統の技が受け継がれて行くことにも幼稚園は一役買っているのだ。そんな大げさじゃなくても、楽しいからこそ、良いんだなあ。

